

事務事業事後評価シート[平成29年度事業]

1. 基本情報

■事業の担当課	保健福祉部健康増進課		■担当係	健康係
■評価事業名称	子宮がん検診			
■事業開始年度				
■評価事業コード	040200 - 006	■会計区分	一般会計	
■総合計画での位置づけ	■政策	01 子育てと医療・福祉の充実した明るく健やかなまちづくり		
	■基本施策	03 健康づくりの推進と地域医療の充実		
	■施策	02 病気の予防、早期発見、早期治療の推進		
■事業の類型	05 ソフト事業(任意)		■政策・業務区分	政策
■法令の根拠区分	法令に特に定めのないもの			
■法令等の名称	健康増進法、がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針			
■関連計画の名称	北上市健康づくりプラン			
■事業の目的と概要	子宮頸部及び体部に発生するがんを早期発見し、早期治療に結びつける。(集団検診・個別検診)(頸部・体部)問診・内診・頸部細胞診・体部細胞診・事後管理等			

2. 細事業の活動実績情報

細事業コード	細事業名称	事業の対象	平成29年度事業計画	平成29年度事業量実績
01	子宮がん検診	20歳以上の女性	集団検診: 32日間実施 個別検診: 市内3医療機関	集団検診32日実施。個別検診は市内3か所の医療機関で実施。対象者9,874人、受診者3,621人。受診率36.7%。

3. 投入コスト情報

(単位: 千円)

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	備考
直接事業費	13,482	16,746	15,962	16,565	
人件費	3,977	2,830	2,628	2,312	
その他(公債費・減価償却費等)					
フルコスト	17,459	19,576	18,590	18,877	

4. 評価指標等の状況

指標コード	指標名	26年度	27年度	28年度	29年度	指標の説明
01	子宮がん検診年間受診日数	45日	34日	32日間	32日	検診委託業者との日程調整及び各検診との日程、会場の調整により実績値となった。個別医療機関での実施は日数に含まれていない。
03	子宮頸部及び体部がん検診受診率	37.8%	41.5%	38.4%	36.7%	(頸部受診者数) ÷ (頸部対象者数) × 100

事務事業事後評価シート[平成29年度事業]

04	単位当たりコスト	4.75千円	5.06千円	5.36千円	5.21千円	フルコスト
----	----------	--------	--------	--------	--------	-------

5. 事後評価(「政策」事業類型5・6のみ)

■目標達成状況

- A. 順調
- B. 概ね順調
- C. 遅れている

達成状況の分析

2年に1度の検診間隔のため、単純な経年比較はできないものの、30%超の受診率を維持している。

問題点・課題等

隔年検診のため、継続的な受診と受診率向上に向けた受診勧奨が必要。

1. 直接的な受益者の範囲

- 不特定多数に及ぶ
- 特定されるが多数に及ぶ
- 特定少数に限定される

2. 国・県・民間との競合関係の有無

- 類似の事業はない
- 類似の事業はあるが競合はない
- 類似の事業があり競合する

3. 事業廃止の影響

- 大きな不利益やリスクが生じる
- ある程度の不利益やリスクが生じる
- 不利益やリスクは小さい

4. 市民生活・企業活動への影響

- 市民生活・企業活動の維持に不可欠
- 市民生活・企業活動の維持の向上に必要
- 市民生活・企業活動の維持の向上への影響は少ない

5. 事業廃止の影響を受ける受益者の割合

- 1. で選択した人の大多数(70%程度)
- 1. で選択した人の半分程度(50%程度)
- 1. で選択した人の少数(30%程度)

6. 事業へのニーズの変化

- ニーズが高まっている
- ニーズは変わらない
- ニーズが低下している又は合致しない

7. 施策の改善需要度(市民意識調査)

- 順位が高い
- 順位が中程度
- 順位が低い

8. 施策の優先度(市民意識調査)

- 順位が高い
- 順位が中程度
- 順位が低い

9. 他市町村に比較しての優位性

- 先進的またはユニークな事業である
- 他と同程度の事業である
- 遅れている事業である

10. 実施主体の代替性

- 民間委託等の拡充は難しい
- 民間委託等の拡充が十分に可能
- 全部委託や実施主体の移行が可能

11. 経済性・効率性の向上

- 今以上の効率化や改善は難しい
- 効率化や改善を図ることは十分に可能
- 効率化や改善の余地が大きい

■事業の見直し方策(評価項目2.4の補足説明含む)

早期発見・早期治療にはがん検診が有効であるため、事業の継続が必要。

■今後の方向性

- I. 拡充
- II. 継続
- III. 縮小
- IV. 廃止・休止
- V. 完了